



例会/毎週水曜日 12:45~ 例会場/勇屋会館 事務所/安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F  
 TEL0263(73)2901 FAX0263(72)3181 E-mail azumirc@poppy.ocn.ne.jp

会長 小林繁則 幹事 田野陽子・二木正之

2018~2019年度 R. Iテーマ

インスピレーションになろう

R. I会長 バリー・ラシン



クラブ標語:「It is much More Important how to be good ,rather than how to do good」

～ 9月は教育と識字率向上月間です ～

★ 配布 幹事報告8号

★ ゲスト

日本銀行松本支店 支店長 和田健治 様  
 交換留学生 トリスタン・クロスマン 様

★ 会長挨拶 [小林会長]



本日はゲストに、日本銀行松本支店長 和田健治様、交換留学生 トリスタン・クロスマン君をお迎えしての親睦夜間例会です。後ほどお二人よりスピーチをしていただきます。

過日9月5日pm16:00より南安曇農業高等学校にて、第2回のこども食堂プロジェクトについて、私、二木幹事、丸山英樹委員長、岩波委員長と、南濃の小池先生、IAC3年生の西協会長、森川幹事、大塚幹事、丸山さん、渋谷さん、計10名にて意見交換をいたしました。

この共同活動の趣旨を説明し、IACの皆さん一人一人に意見をお聞きしたところ、皆さん、とてもこのプロジェクトを理解していただいております、地域のために自分たちが今できることをしたい、南濃の特色をだした事ができれば、等、前向きな意見をいただきました。

開催予定日は、11月21日から12月2日(日)に変更でほぼ決定になります。こども食堂の具体的な内容は、初めから一から作り上げるのではハードルも高く、時間の余裕もないために、現在、安曇野市内で運営されている、こども食堂に協賛する方が初年度としては良いのではないかとということで、小池先生から「あづみ野おなかまキッチン」、堀金公民館を使用して、2か月毎に子ども食堂を開催してい

るグループを紹介していただきました。次回の開催が10月7日(日)にあるということで、その日に見学をさせていただき、協賛できるのか探っていきたいと考えています。

この南濃IACとの共同活動をきっかけに、今後、IAC皆様と関わる機会を増やしていきたいと思えます。今年度のクリスマス家族例会にもお呼びし、活動報告やアトラクション等を披露していただければ、より、当クラブとの距離も近づくのではないかと考えます。

会員の皆様の参加と、ご協力とご支援で、是非、このプロジェクトが開催できますようお願い致します。

2016年手続要覧の読み合わせ(その3)は、ゲスト様のスピーチがありますから、次回にさせていただきます。

★ 幹事報告 [二木正之 幹事]



別紙参照

◇出席

会員総数 28名	出席免除会員数 2名
本日の出席率	前々回(8月22日修正出席率)
出席者: 11名	欠席者: 15名
欠席者: 15名	メキャップ: 11名
出席率: 40.74%	出席率: 92.30%

## ◇ニコニコBOX

市川：ご無沙汰しております。日銀松本支店長  
和田様を歓迎申し上げます。

[11件 11,000円]

今年度ニコニコBOX 計 104,440円

★ 日本銀行松本支店 支店長 和田健治 様  
スピーチ



日本銀行松本支店の  
和田と申します。本日は、  
このような盛大な会にお  
招き頂き、有難うござい  
ます。20分ほどお時間を

頂戴し、「最近の金融経済情勢」

と題したお話をさせていただきます。その前に私の略歴  
はお手元に用意した資料のとおりですが、それに掲  
載されていない内容を1点、紹介させていただきます。私  
は平成3年に日本銀行に入行しましたが、その年の  
11月に松本支店配属となり、長野県に1年半ほど勤  
務しました。その際、安曇野にはプライベートで頻  
繁に訪れており、今でも大変懐かしい思い出となっ  
ています。この点、本日、あづみ野ロータリークラ  
ブ会員の皆様と交流出来ます事、大変光栄に存じて  
おります。

さて、講演に入らせて頂きます。まず、日本経済  
を取り巻く世界経済の動向から始めます。IMF(国  
際通貨基金)が、本年7月に公表した世界経済の予  
測によりますと、18年から20年まで、世界の成長  
率は、前年比+3.8~+3.9%と比較的高い伸びを維  
持する見通しです。1980年以降の世界経済の平均成  
長率は前年比+3.5%のため、IMFは、この先3  
年間、それを上回る成長になると見えています。この  
背景には、世界の貿易量の増加トレンドが今後も続  
くと予測が存在すると思われれます。丁度16年夏場  
以降から、世界の貿易量が増加しておりますが、こ  
の背景としては、自動車における搭載部品の高度化  
や電気自動車化、高性能スマートフォンの普及、  
ビッグデータ、生産現場省力化のためのファクトリ  
ーオートメーション化やロボット導入等、数々の新  
しいテーマ(材料)の出現が指摘出来ます。

こうした世界経済の回復を受けて、日本からの輸  
出量も増加しています。仕向け地域別に輸出動向を  
見ますと、米国、EU、そして新興国の中でも、特  
に中国向けの増加が顕著となっています。これら地  
域から、自動車や電機・電子部品、一般機械といっ  
た業種を中心に、日本の高性能部品や機械へのニー  
ズが多くなっており、輸出量も急増の状況にあり、  
最近の日本経済の牽引力になっています。

こうした動向は、長野県経済にも良い影響を及ぼ  
しています。生産の状況について、全国と長野県を  
比較しますと、丁度、16年夏場以降、長野県が生産  
が急回復し、現在では、全国の生産とほぼ同じ水準  
にまで回復しています。日本銀行が四半期毎に公表  
する日本銀行企業短期経済観測調査(日銀短観)で  
も、長野県企業の業況感は、16年までは全国と比べ  
て回復ピッチが遅れていましたが、16年夏場以降は  
急速に回復し、全国とほぼ同水準の業況感になっ  
ています。このうち、製造業企業の業況感について、  
長野県は、17年以降、全国を一気に追い抜き、回復  
を鮮明にしています。これは、先ほどお話した世界  
経済の回復や貿易量の増加が、長野県の製造業企業  
に好影響を及ぼしていることが背景にあります。一  
方で、非製造業の業況感は、長野県も徐々に回復し  
ていますが、全国と比べると回復ペースがやや鈍い  
状況になっています。もっとも、非製造業を業種別  
に見ると、製造業企業の生産活動活発化を受けて、  
運輸業における業況感の回復が著しいほか、製造業  
企業の設備投資活発化を受けて、工場増設案件を受  
注した建設業企業などでは業況が回復しています。

このように、生産や企業マインド(業況感)が良い  
状況の下、企業の設備投資は積極的になっています。  
最近の日銀短観で、18年度の長野県企業の設備投資  
計画を見ると、製造業で前年比+18.6%、非製造業  
で同▲2.2%と、製造業を中心に強い計画となってい  
ます。特に、生産や収益が良いこと等を背景にした  
能力増強投資のほか、深刻な人手不足への対応から  
省力化投資を進める先が多くなってきています。非  
製造業については、18年度の設備投資計画は小幅の

前年割れですが、毎年、6月時点での短観調査では、非製造業企業の設備投資はマイナスでスタートし、年度末にかけて上方修正されてくる場合が多いことを勘案すると、本年度末には大きな落ち込みにはならないと思われます。一方、長野県も、雇用の不足状況が、製造業、非製造業ともに益々深刻になっているため、省力化投資などを行う動きが更に広がってくる可能性があります。

景気を見る上で、設備投資と並んで重要なのが個人消費の動向ですが、個人消費は、良好な雇用・所得環境を反映して、底固く推移しています。特に、長野県では、本夏の猛暑を受けてエアコンが売れたほか、飲料やアイスなど季節商品の売上も好調だったことから、全国と比較しても良好だったと言えます。

このように、長野県経済は、世界経済の回復や輸出の増加の恩恵を受けて、製造業企業を中心に回復しており、経済全体も緩やかに拡大しています。こうした景気拡大が先行きも続くかという点では、やはり世界経済の動向が注目されます。現在、米国の通商政策の変更により、特に米国と中国との間で、関税の引き上げが展開されていますが、こうした措置が、先行きの世界経済や貿易量にどのような影響を及ぼすか、長野県経済の先行きを占う上でも特に注視していく必要があるかと思えます。私の話は以上です。ご清聴有難うございました。



### ★交換留学生

トリストマン・クロスマン君 挨拶

